



1月の図書館だより

2018年 1月発行
小鮎中学校 図書室
学校司書

新しい年が始まり、学年最後の学期もスタートしましたね。3学期はあっという間です。くいのないよう充実した毎日を過ごしてくださいね。

図書室には新しい本がたくさん入りました。ぜひ手にとってみてください。



今月のおすすめ本



〈1月は、日本の伝統について考える良い機会です〉

『こども文様ずかん』 下中菜穂／平凡社

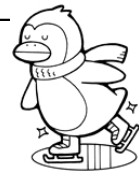
自然のなかにある様々な形、それを切り取って表した文様。日本人はそこに昔から意味を持たせて親しんできました。梅や桜、千鳥に鶴亀など、春夏秋冬の様々な文様を、その由来や使われ方とともに紹介しています。



『神社・お寺のふしぎ100 すぐ近くにある「日本人の心のふるさと」のなぜ』

田中ひろみ／偕成社

お正月に神社に初もうでに行ったり、お寺で除夜の鐘をついたりした経験は皆さんにもあるのではないのでしょうか？身近でありながら意外に知らないことも多い神社やお寺。この本は、そういった神社やお寺に関する100の疑問や質問に、美しい写真とわかりやすい文章で答えています。



◎新着コミック

新しいコミックがはいりました。『宇宙兄弟』『銀の匙』『3月のライオン』です。
貸し出し禁止ですので、図書室内で読んでください。

◎2学期の利用について

2学期の図書室の利用者は、のべ1339人！昼休みという短い時間ですが、本を借りる以外に、自習をしたり、自分の本を読んだり、友だちと絵本のなぞ解きに取り組んだり、様々な形で利用がありました。貸出数は380冊と、1学期の580冊には残念ながら及びませんでした。3学期もたくさん新しい本が入りました。どんどん利用してください。

◎3学期は金曜日放課後図書室を開館します

1月は19日と26日を予定しています。昼休みが忙しい人はぜひ利用してください。

新着図書の紹介

『「無言館」ものがたり』

窪島誠一郎／講談社

太平洋戦争で亡くなった画学生たちの作品や遺品を展示している小さな美術館「無言館」。この美術館を作るために、遺族を探し当て全国を旅し、そして金策にも走り回った作者が、その思いをつづったノンフィクションです。彼らが残した絵は、数少ない絵の具や紙を使って一生懸命描いたもの。だからこそ未熟ながらも美しい輝きがあります。それは、戦争の愚かさや残酷さを改めて気づかせてくれると語っています。

『ウソのような現実の大図鑑』

アンドレア・ミルズ／東京書籍

現実にあるのが信じられないような、奇妙な地形や生物、そして現象など。1ページめくるたびに驚きに満ちた内容を紹介し、写真や図版でその秘密を解き明かしています。地球が作る芸術やおもしろい動物、神秘の自然現象など、5つの章で構成されています。

『さよなら、田中さん』

鈴木るりか／小学館

主人公の花実は小学6年生。貧乏な家庭だけど、底抜けに明るい肉体労働者の母と、大食い、大笑いの日々を送っています。彼女たちのちょっとホロリ、そして笑える日常を5編の短編で描いています。作者は皆さんと同じ中学生で、この作品でデビューしました。

『命をつなげ！ドクターヘリ』 日本医科大学千葉北総病院より』

岩貞るみこ／講談社

ドラマ「コード・ブルー」でご存知の人もあるのではないのでしょうか？医療機器を装備したヘリコプターに医師や看護師が同乗して、救命医療を行いながら搬送するドクターヘリ、そこでは、一つの命を救うため、多くの人々がそれぞれのベストをつくして奮闘しています。緊迫感あふれるノンフィクションを新米医師の目を通して描いています。

『寿命はなぜ決まっているのか』 長生き遺伝子のヒミツ』

小林武彦／岩波ジュニア新書

皆さんには、まだピンとこないかもしれませんが、いつまでも若く健康でいたいという、アンチエイジング(老化防止)が関心を集めています。なぜ、人間は老い、必ず死んでいくのでしょうか？寿命を伸ばすことは可能でしょうか？細胞の老化を第一線で研究する著者が、科学的な観点から解説します。

『か「く」「し」「ご」と』

住野よる／新潮社

「君の隣臓を食べたい」の作者が贈る青春小説です。高校のクラスメイト5人は、みんながそれぞれちょっと変わった能力=かくしごとを持っています。そのことが、照らし出す、お互いへのもどかしい想い。5人の気持ちに寄り添って読んでみてください。